

【研究テーマ】自らの力で切りひらく児童生徒をめざして ～「防災」への「探究」から広がる小中一貫教育の可能性～

1 研究の目的

- ・小中一貫教育を通じて、主体的に学び、成長することができるたくましくしなやかな子どもを育む。
 - ・防災教育を軸とした探究的な学習を展開し、問題解決力やシチズンシップを育む。
 - ・防災教育を小中9年間で推進することで、地域と協働した社会に開かれた教育課程を実現する。
- 【資料1】

2 取組内容

1 小中一貫教育推進組織づくり【資料2】

小中一貫教育準備委員会（地域とのつながり）、プロジェクト会議（3部長中心）など

2 各部の取組

(1) 生活部の実践：9年間を貫く防災探究学習の推進

- ①平成29年度より、12月第一日曜日の地域防災の日を授業日へ→全小中学生が訓練に参加
また、午後は全学年防災学習の公開授業を行う
- ②平成29年・30年・令和2年に宮城県の被災地訪問（石巻市立大川小学校跡・仙台市立荒浜小学校跡を訪問、仙台市立高砂中学校との交流）→小・中とも事後報告会実施
- ③自助→共助と発展する防災探究学習カリキュラムづくり
1年生～4年生は自助、4年生～7年生は自助と共助、8・9年生は共助を中心に学習が発展していくように系統的な防災学習をデザイン【資料3】【資料4】
→小学校では、平成29年度の5年生が学区の危険箇所や津波避難ができる建物を調査し、防災マップを作成。中島学区全世帯に配布。【資料5】
平成30年度の5年生は、拡大防災マップを作成し、地域へ発信。
→中学校では、平成31年度（令和元年度）より「地区の防災訓練をより良いものにする」をテーマに、探究的な防災学習を展開。住んでいる町内会ごとの異学年集団（班）を作り、自ら定めた探究テーマに沿って学習する全校総合をスタート。地域防災の日の公開授業で学習成果報告会を実施した。【資料6】
令和2～3年には7年生が中島地区自治会連合会からの「家庭用非常持ち出しチェックリスト」作成の依頼を受け、作成した後、学区5000世帯に配付した。3000世帯から提出されたチェックリストを集計・分析し、地域にその結果を発信する。

④探究的な防災学習から教育活動全体を変えていく「カリキュラム・マネジメント」

防災学習を軸に、学校行事や教科の学習を横断的につなげることで、教育活動全体に小中一貫教育の効果をより反映させる。

(2) 学習部の実践：小中共通の研修テーマ「できた実感する授業」【資料7】

- ・小中全学年全ての授業で、「めあて」「もんだい」「まとめ」のカードを活用した授業作り。小中合同研修会では、カードを活用した授業の進め方などについて協議し、特に、「もんだい」の設定の仕方について意見交換することで、問題解決型の授業づくりについて共通理解を図った。

(3) 特別活動部の実践：児童生徒間交流の促進・発展

- ・平成29年度より、全学年1人1つの防災BOXを作成しているが、新1年生が初めて防災BOXを作る際は、7年生がアドバイザーとして活躍している。【資料8】
- ・「中島あいさつ・笑顔お届け隊」として、7年生を中心に小学校正門前で、週に2回あいさつ活動を行っている。
- ・6年生が中学校を訪れ、7・8・9年生と共に合同学校保健委員会を実施。
- ・令和2年より、2年生の生活科の「学区探検」の単元で、中学校に訪問する。中学校の先生の話の聞き、中学生の活動や施設を見ることを通して、魅力や憧れを抱かせる。
- ・「中島・夢・魅力 体験事業」と称して、中島中内に6年生の教室を設置し、中島中の6年生が3日間のリアル中学校生活を体験する。中学校の先生による7～9年生と一緒に生徒会活動、部活動を実際に体験する。

3 考察（成果と課題）

中島中グループとしての成果

- 1 **ブランド（強み）とプライド（誇り）をもつ**
 - ・子どもたちも教職員も、自校に対する強みと誇りを感じ、自信をもって教育活動に取り組んでいる。
 - ・その姿を学校HP、学校だよりなどで積極的に発信することにより、保護者や地域からの学校への理解が高まり、協力体制がより強まった。
- 2 **教職員の意識改革**
 - ・小中合同研修会を通じて、小中教職員間の意識や感覚の「ずれ」を埋めることができた。また、互いの教育活動を理解しようという意識が高まった。
 - ・小学校教諭は中学校教諭から専門性と授業力を、中学校教諭は小学校教諭から子どもの見とり方・引き付け方を学び、相互に高め合うことができた。
- 3 **子どもを中心に大人が目的意識を共有**
 - ・小中教職員と保護者に加え、地域の人々、有識者、行政などが「中島の子を育てるために」という意識で連携する動きが生まれた。
- 4 **児童生徒の良い現れ**
 - ・6年生全員がふじのくにジュニア防災士に認定（平成30年度）
 - ・小・中とも、児童会や生徒会が自ら防災訓練を企画・運営
 - ・地域防災訓練に「参画」することで、地域に貢献しようという意識が高まった。

中島中グループとしての課題

- 1 **学力向上へのアプローチ【資料9】**

防災についての探究学習をきっかけに、各教科においても探究的な学びを充実させ、学力向上につなげていく。
- 2 **持続可能な取組にすること**

小中一貫教育の取組が一部の教職員の取組で終わるのではなく、組織として教職員全体が関わる仕組みを作る必要がある。

これからの静岡型小中一貫教育への提案

- 1 **しずおか学（6つの選択的内容）の弾力的な扱いについて**

選択的内容として「お茶」「しずまえ」「海洋文化」「防災」「歴史文化」「オクシズ」の6つが指定されているが、グループ校によっては、この6つがうまく当てはまらない校区もある。その場合、「静岡市に関すること、校区の地域社会に関わること」であれば、指定された6つの内容に当てはまらなくても、選択的内容として扱うことができる配慮があると、グループ校の特色を生かした主体的なしずおか学が展開できる。
- 2 **しずおか学（選択的内容）を扱う時間の捉え方について**

静岡型小中一貫教育カリキュラム【解説】では、選択的内容は総合的な学習の時間から20時間と規定されているが、カリキュラム・マネジメントの観点から考えると、総合的な学習の時間から20時間と限定するのではなく、選択的内容に関連する教科や道徳、学校行事等の取組も含めておよそ20時間の学習活動と考えることで、より横断的な教育活動が展開でき、深い学びにつながる。

4 今後の方向性

小中一貫コミュニティスクールへの発展

- ①『小中一貫教育』と②『小中一貫コミュニティ・スクール』を活かした教育活動の推進
- ①②は住宅に例えると、垂直方向の柱と水平方向の梁。太く確かなフレームはできあがった。このフレームを活かして、子どもたち一人一人が安心して、夢を抱き、夢を語り合い、夢が実現できるよう、令和3年は小中全職員で「特別支援教育の考え方に基づく『子ども理解』を推進する。